

# 平成 29 年度小さな拠点・地域運営組織 九州ブロック研修会 開催概要

## (1) 全体概要

日 時：平成 30 年 2 月 2 日（金）13:30～17:00  
会 場：TKP 熊本カンファレンスセンター「はなしょうぶ」  
出席者：73 名（主に地方自治体職員が 9 割、地域住民等 1 割）

## (2) 九州ブロックの特徴（他ブロックとの差別化）

- ・「小さな拠点・地域運営組織」の形成数が比較的少なく、検討段階の自治体・地域が多い。
- ・「小さな拠点・地域運営組織」に関する情報提供、具体的な取組方法の学び合いを主テーマに開催。

## (3) プログラム

時間	タイトル	講師
13:30～13:35 (5分)	開会	
13:35～13:50 (15分)	説明 「小さな拠点・地域運営組織を取り巻く 制度概要・支援状況」	吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局 参事官）
13:50～14:20 (30分)	事例発表 「深見地区まちづくり協議会の取組み について」	清永 五郎氏（宇佐市安心院町深見地区 まちづくり協議会事務局長）
14:20～14:50 (30分)	事例発表 「地域コミュニティ組織の形成に向け た取組み～話し合いの場を大切に～」	原田 宏子氏（長崎市役所企画財政部政 策監兼都市経営室長）
14:50～15:20 (30分)	講演 「自治を育む仕組みと仕掛け～進度に 応じて考える～」	板持 周治氏（雲南市役所政策企画部地 域振興課企画官）
15:20～15:35	休憩	
15:35～17:05 (90分)	ワークショップ 「悩みの共有とアドバイス」	・
17:05～17:10 (5分)	閉会	

## (4) 研修結果

- 1) 国の取組説明 講師：吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局）  
資料のとおり

2) 事例発表 講師：清永 五郎氏（宇佐市安心院町深見地区まちづくり協議会）

資料のとおり

3) 事例発表 講師：原田 宏子氏（長崎市役所企画財政部）

資料のとおり

4) 講演 講師：板持 周治氏（雲南市役所政策企画部）

資料のとおり

5) ワークショップ（悩みの共有とアドバイス）

- ・ 6人程度の班に分かれて、悩みや疑問点の共有（20分）、各班から2つ程度、質問したいことを発表（10分）。
- ・ 質問に対し、講師陣が事例を交えながら回答（20分）



■寄せられた質問と回答

質問	回答
稼げる体制をつくるには？	深見地区では、「研修料として1000円いただきたい」との思い→そのために良い取組みを+特産品を土産にすることで、生産者や地域全体も巻き込むようなしなやかな仕組みづくりに取り組んだ。イベントでは参加費を頂くことで、気兼ねなく参加+担い手も支えている意識が生まれる。
人材不足への対応、確保するためには？	地域のことを詳しく知らない人が「人材不足」を感じる傾向があるのではないかと。イベント時などに積極的に話しかけることで特技もわかる。意外に人材は居るもの。
人間関係の構築方法は？	まず、信頼できる人材を見つけて多数派を広げていく。
研修メニューには何がある？	基礎的研修、事務的研修、稼いでいくための研修など、地域のニーズに合った研修を。最先端のすばらしい事例ではなく、ちょっと背伸びした事例を見に行くこと。「追い越す」という意識が大切。
民間事業者は必要か？	事業者にも能力・経験があるので関わってもらいたい。
住民意識の変化はどのくらいの人に起こったか？外部からの視察は刺激になる？	100%ではないが、2,3割が変わっていく。知事などの訪問を受けると、「見られている、褒められている」という意識が住民に広まっていく。
意識を変えるためのはたらきかけ方は？第三者が話すとき聞き入れられやすい？	自治基本条例「自分たちでまちをつくる」。WSを繰り返し開催。やれない理由・愚痴を聞いていき、それを一つずつひっくり返していく。
自治会でうまくいっている場合、将来に向けた課題解決組織の形成方法は？	課題の原因を繰り返し掘り下げていくと些細な事象だったりする。それを常に意識を持っておき、一つずつ解決していく。惰性・慣習で行っているものについて一度メスを入れること。ねらい・内容・効果を発表してもらう。
「小さな拠点づくり」とは、しくみづくり？場所づくり？	拠点＝場所。一つの施設に、一カ所に、サービスを受けられる場所・たまり場・提供する場。+ソフトを作ることを忘れずに。
職員がどこまで地域に関わっていくべきか？	地域の成熟度合いで関わり方・求められることは変わってくる。職員間で話し合い役割を共有することも重要。地域に出番と主役を与える意識で「黒子」になること。